

技術報告集によせて

平成元年に工学部・技術部等の有志によりスタートした「技術職員による技術報告集」ですが、本年度より主催を三重大学としてここに新たに発刊できることを喜ばしく思います。今回で 17 回目の報告集と聞いておりますが、この間一度も途切れることも無く編集され、ISSN (International Standard Serial Number、国際標準逐次刊行物番号) での登録された逐次刊行資料となっております。国立国会図書館はもとより全国の関係各機関 (大学・高専等) への配信も行っており、また、関係各機関との報告集による相互交流・情報交換等も活発に行われ、これらは年々増加し昨年度は 50 機関を超えたと伺っております。

さて、ここで三重大学の技術職員 (教室系) の紹介をさせていただきます。技術職員は、全学に 50 名以上の方々が工学部、生物資源学部、医学部、教育学部および各共通センター等に在籍し、個々に専門的な技術をもって日常の業務である教育・研究支援に励んでおります。平成 16 年の国立大学の法人化以降は、人事院規則の適用から外れ労働安全衛生法への対応を余儀なくされ、それらの対応において技術職員による全学への積極的な貢献をして頂いております。特に作業環境測定においては、工学部技術部の職員が活動の範囲を学部内から全学へ向けた取り組みとして大いに評価させて頂いております。

本報告集の内容から、技術開発、技術紹介、学生実験での提案等々、また学外からは静岡大学、名古屋工業大学からの報告もあり盛りだくさんな内容に仕上がっており、これらを基に学内技術職員が技術交流・人的交流を重ね各ネットワークの構築をし、それらがまた相互理解へと発展し技術職員の質の向上につながり、大学の構成員である教員、事務員と協力し三位一体となって三重大学全学の発展に寄与していければ幸いです。

最後に、本技術報告集が学内技術職員の貴重な研修の証として継続的に発刊され、またその中心となる技術発表会が活況に湧く会であることを祈念してわたくしの挨拶とさせていただきます。

2009 年 2 月

三重大学長 豊田 長 康